

# 会 議 録

会議の名称	令和4年度第4回上尾市立中学校給食共同調理場運営委員会	
開催日時	令和4年11月15日(火) 午後2時～3時30分	
開催場所	中学校給食共同調理場2階研修室	
議長(委員長・会長)氏名	村田 正則	
出席者(委員)氏名	酒井 一昭、河合 弘樹、塚崎 瑞起、岡村 克之、藤波 由浩、 今井 真美	
欠席者(委員)氏名	大澤 聡、武田 直美、山本 良彦、伊藤 裕之、栗原 啓佑	
事務局	小林所長、棚澤副主幹、 湯浅栄養教諭、大野栄養教諭	
会 議 事 項	1 議 題	2 会議結果
	(1) 令和4年度第1学期中学校給食共同調理場事業報告 (2) 学校給食費の改定について ・中学校給食費取扱い基準(案) ・新旧対応表 (3) 令和5年度中学校給食実施計画表(案)について (4) 給食提供方式について ・各提供方式の説明 ・各給食提供方式のメリット・デメリット用語説明 ・埼玉県内市町村給食提供方式採用状況 ・各給食提供方式のメリット・デメリット ・給食提供方式別概算費用 ・親子方式のコストについて	承認  承認  次回運営委員会で給食費改訂案とあわせて事務局提示案を審議  事務局提示資料を基に、各委員より給食提供方式についての意見を聴取するとともに、アンケート調査を実施
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者数 0名
会議資料	別添	
<p>議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和4年12月26日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 <u>村田 正則</u></p> <p style="text-align: right;">議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)</p>		

## 議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項等
事務局	1 開会
村田会長	2 会長挨拶
村田会長	3 議事 <u>(1) 令和4年度第1学期中学校給食共同調理場事業報告</u> [事務局より会議資料(資料1)に基づき説明。]
藤波副会長	〈主な質疑等〉 資料2ページの食育活動の報告の中で、地域との連携については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施しなかったとあるが、通常はどのようなことを行っているのか。
事務局	例年であれば、広報紙で参加者を募集し、共同調理場で試食会及び調理講習会を実施している。現在は実施していないが、感染状況を注視しながら、適切な時期に再開したいと考えている。
藤波副会長	参加者は何人くらいいるのか。
事務局	会場のスペースや調理台の数の関係上、毎回10人程度である。
藤波副会長	資料3ページの衛生検査の報告の中で、各中学校給食室の箇所にシンクが三槽でないとの指摘があるが、具体的にどういうことか。
事務局	三槽シンクとは、衛生管理の観点から3つの流し台に区分けされ、野菜の泥落としや皮むきなどの各作業内容を分けて行えるシンクのことである。 本件については、共同調理場及び各中学校給食室が運営を開始した平成5年当初は衛生管理基準に規定されていなかったが、その後に0-157対応のため努力義務として規定されたものである。
村田会長	施設の改善については難しい面もあるかとは思いますが、継続してできる限りの対応をしてもらえると学校側としては大変助かる。
事務局	一度にまとめて改善するのは難しいが、三槽シンクについても他の備品等と同様に、更新計画に基づいて順次対応している状況である。
今井委員	資料4ページの食材検査の報告の中で、検査結果が陰性とあるが、具体的には何の検査結果なのか。

事務局	腸管出血性大腸菌O-157の検査結果である。
村田会長	資料6ページの令和4年度一学期給食費等収入・支出状況の収入の部に繰越金(前年度繰越金)とあるが、この金額には未納分は含まれておらず、今後回収できた場合に、その時点で収入として計上されるのか。
事務局	ご指摘のとおりである。
村田会長	その場合には、他の生徒から徴収した給食費の一部を未納の生徒の食料分に充てているということか。
事務局	未納は、資料7ページの令和4年度給食費未収金整理簿のとおり、1学期時点での11校全体の未収率は4.3%であるが、例年2学期以降に就学援助手続き完了に伴う入金等が多くある。年度末には令和3年度実績のように0.1%程度となり、最終的な未納は非常に少ないのが現状である。
	(2) 学校給食費の改定について
	[事務局より会議資料(資料2-1~3)に基づき説明。]
酒井委員	<p>〈主な質疑等〉</p> <p>今回の学校給食費の改定は、保護者負担増を防ぐためであるが、教職員の負担増という一面もある。物価高騰に直面する中でやむを得ないところもあると思うが、7月に引続き今回も教職員の負担を上げることに、事務局ではどのように考えているか</p>
事務局	食材費高騰の中、国の交付金を教職員分に充当することができない。そのため、7月に引続き今回も教職員の食材費高騰分の給食費を値上げせざるを得ないのが現状である。
村田会長	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について、上尾市全体額のうち給食関係にどのくらい充てたのか。
事務局	上尾市全体では新型コロナウイルス感染症対応として多岐にわたる事業に交付金を充当しており、最終的な全体額は把握していない。なお、中学校給食分についてだと、7月に約12.1百万円、今回は3.4百万円であわせて約15.5百万円程度になる。
藤波副会長	資料1の6ページの収入・支出状況の収入の欄に交付金の額を表示したらどうか。
事務局	次回運営委員会で提示する。

(3) 令和5年度中学校給食実施計画表(案)について

[事務局より会議資料(資料3-1~2)に基づき説明。]

〈主な質疑等〉

藤波副会長

令和5年度に従来通り実施した場合(案1)の給食回数の187回と184回に給食回数を3回減らした場合(案2)の2案が事務局より提示されている。

事務局の説明では、教育的観点というよりも、単に給食費改訂の面から3回減らす案が提示されたように思えるので、この席上で回数を減らす案2がよいと判断するのは難しいのではないかと。

それから、学校毎に体育祭実施日を決められることを前提に案1ができていますが、その場合に休みの日が1日減ることにより施設等の稼働コストが余計にかかるのではないかと。

事務局

これまでと同程度の献立を提供するとして、提供回数が多くなれば給食費も上げざるを得ないのが実状である。

なお、令和4年度当初の月額5,200円を維持するには、単純計算で11回減らす必要があると前回説明したが、その場合には学校運営に大きな支障をきたすことから、現実的に対応可能なものとして3回減らす案2を提示させていただいた。

また、体育祭実施日の関係で献立作成日が1日増える影響については、給食実施校が1つでもあれば、施設等は稼働することになるので、燃料費等の市の経費が増えることになる。

村田会長

事務局から3回減らすとの提案が出てきたが、その場合は値上げをしないということか。

事務局

今回のご意見を踏まえて検討を進めていく。

村田会長

次回運営員会で給食費改訂案とあわせて審議することとでどうか。

事務局

次回運営委員会で給食費改訂と実施回数をあわせて事務局案を示させていただきます。

(4) 給食提供方式について

[事務局より会議資料(資料4-1~6)に基づき説明。]

〈主な質疑等〉

酒井委員

学校側からすると自校方式が望ましいのではないかとと思われる。資料4-4「各給食提供方式のメリット・デメリット」からも、生徒たちにとってのメリットの視点から見ると非常に魅力的な内容となっている。一方で、コスト面からの実現性の視点とのバランスを考慮すると判断するのが非常に難しいと感じている。

市内中学校の体育館の冷房が全て整備されたが、これは大規模災害発

生時に避難所としての機能を高めるための対策の一環であると聞いている。同様に、各中学校に給食室が設置されていることにより、災害時に調理施設としての機能を果たせる可能性もある。また、学校現場からすると、栄養教諭等が各校に配置されることで、食材トラブル時の対応やアレルギー反応が起きた際に養護教諭と連携して対応できるなど、安心感がある。食育指導についても、細やかな指導を行える体制を整えて欲しいが、センター方式などでは栄養教諭等の配置人数が十分といえるか不安な点もある。

このように、自校方式は魅力的な面が多いが、費用など現実的な面も踏まえると判断が難しい。個人的には自校方式かセンター&サテライト方式がよいのではと思う。

河合委員

個人的には自校方式がよいと思うが、校舎の建て替えや維持管理費用を考慮すると判断が難しい。給食は生徒の成長面においてとても重要であり、給食を楽しみにしている生徒が多い中で、おいしさがとても大切な点だと思う。以前の勤務校ではセンター方式で民間委託の形態であったが、冷たいなどの理由で給食を残す生徒が多かった。食は身体の発達において様々な面で大切であり、食から学ぶことが多いと思うので、自校方式かセンター&サテライト方式がよいのかと思う。

塚崎委員

判断が非常に難しいと感じた。自校式だと4時間目の授業の頃には給食のにおいがしてくる。身近な場所で給食が調理されていることで、食や調理員に対する感謝の気持ちなどが生まれやすいのではないかと。

岡村委員

個人的には自校方式の方がよいのではないかとと思う。各校に栄養教諭等が配置されていると生徒の食に対する意識が違ってくる。例えば、献立の作り方を出して、家庭で学校の給食と同じように作ることもできるのではないかと。自校方式は費用がかかるが、災害時の対応も含めて得るものも多いと思う。

今井委員

親子方式の組み合わせについて、資料4-6「親子方式のコストについて」の説明の中で、大規模校同士で親子方式を採用した場合には、費用削減効果が少ないまたはかえって割高になるとあった。子どもの多い地域は小中学校ともに児童生徒数が多く、大規模校同士で親子方式となる場合もあるかと思う。しかし、費用面のみで親子方式の組み合わせを考えると、親校から配送する地域が遠くになってしまうことも懸念される。このため、親子方式を検討する際には、費用面の他に食中毒のリスクを抑えるためにも調理後から喫食までの時間をできるだけ短くなるような組み合わせにした方がよいと思われる。

藤波副会長

会議資料を見る限りでは個人的には自校方式がよいと思われる。資料4-5「給食提供方式概算費用」で提供方式毎の概算費用を比較すると自校方式でも思ったよりは差が出ていないという印象を受けた。50年間で見た場合、センター方式と自校方式の費用を比較して、年間約46百万円の差で自校方式が実現できるということになる。上尾市の年間予算が約600億円に対して46百万円をどう考えるかである。前回の運営委員会で配布された学校給食に関するアンケート結果を見ると、自校方式の小学校と比較して、センター&サテライト方式の中学校はサテラ

イトで汁物等を作っはいるものの、残念ながら「おいしさ」の回答数が低くなってしまっている。費用面でのメリットが大きいのであればセンター方式も魅力的ではあるが、年間46百万円の差でおいしさの満足度が大きく上がるのであれば自校方式もよいかと思う。

また、事例数は少ないが、民間への完全委託の形式も資料4-4「各給食提供方式のメリット・デメリット」に記載してもよいのではないか。

村田会長

おいしさの点は重要だと思う。一般にセンター方式は味が落ちるとの意見もあるが、実際に生徒からも小学校の給食はおいしかったとの声もよく聞く。それほど差がないという意見もあるが、子どもたちの認識だと自校方式の方がおいしいとの感想が多いので、その点は大切にしたいと思う。

親子方式について、本校は市内で一番生徒数が多く903名在籍しているが、小学校2校のみから上がってくるので、小中3校とも規模が大きい状況である。このため、近場で親子方式を組む場合、規模の大きい3校分の調理体制を整備できるかという疑問や、小中学校で必要カロリー数が異なるため、同じ献立でも大きさを変えるなどの対応をしてもらえうのかななどの不安がある。

費用面もあるが、生徒にとって良い形で実現してもらえると有難い。今日出てきた意見を参考に今後検討して欲しい。

#### 4 報告・連絡事項

事務局

次回の運営委員会は、令和4年11月22日（火）午後2時からを予定している。追って文書にて通知する。

藤波副会長

閉会あいさつ

※閉会后、各委員に対する給食提供方式に関するアンケート調査を実施。(調査結果添付)